



333 East 47th Street
New York, NY 10017
japansociety.org

<プレス・リリース>

プレス担当：

マリカ・絵美：(EMarica@japansociety.org)

アリソン・ロッドマン (ARodman@japansociety.org)

FOR IMMEDIATE RELEASE

ジャパン・ソサエティー（JS）

舞台公演部 2021-2022 年度シーズン

マイクロスコープ
顕微鏡・ライブ・シネマ・シアター

作・演出：高橋幸世/Nekaa Lab

『SHEEP # 1』

2021年11月4日 - 11月7日

指先大のパペットを、ビデオカメラとプロジェクターを使ってライブで拡大しスクリーン上で演じさせるミニマル・シアター『SHEEP # 1』は、人生の意味を模索する羊の旅の物語。『星の王子様』で有名なアントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリの文章にインスピレーションを得て、ニューヨーク在住のアーティスト、高橋幸世が「顕微鏡・ライブ・シネマ・シアター」と自ら名付けた手法で作りに上げた独創的な舞台作品です。全4日の公演の中で、ピアニストのエミール・ブロンデルとベーシストの加藤英樹が、それぞれライブで音楽を合わせてゆきます。小さな羊が人間の町や自然の中を放浪し思考する姿は、見る者を物語と抽象世界の狭間へと誘い、潜在意識下の夢のような寓話を創造します。高橋は画期的なパペット手法が評価され、2017年、2018年、そして2021年に、ジム・ヘンソン財団から助成を受けています。公演はAプログラムとBプログラムに分かれ、Aプログラムはブロンデルのピアノ演奏、Bプログラムが加藤のベースとのコラボレーションになります。

《J-Culture から見るニューヨーク・アート その3》

マイクロスコープ・ライブ・シネマ・シアター

『SHEEP # 1』

作・演出：高橋幸世/Nekaa Lab

Sachiyo Takahashi's SHEEP #1

日時： 11月4日(木)午後7時30分 プログラムA (終演後に「MetLife Meet-the-Artists レセプション」あり)

11月5日(金)午後7時30分 プログラムB

11月6日(土)午後7時30分 プログラムB

11月7日(日)午後2時30分 プログラムA

チケット料金： 一般 23ドル/JS会員 18ドル

会場： ジャパン・ソサエティー館内(333 East 47th Street)にて開催。

チケット情報： チケットに関する問い合わせや、公演の詳細は www.JapanSociety.org/performingarts または電話：212-715-1258 (月一金 午前11時-午後6時) まで。

【SHEEP #1 クレジット】

コンセプト、サウンドデザイン、ビジュアル・デザイン、パフォーマンス：Nekaa Lab/高橋幸世。ライブ・ミュージック；ピアノ：エミール・ブロンデル、ベース：加藤英樹、ドラマターグ：ピーター・エッカーサル、テクニカル・アドバイザー・ビルダー：ウィリー・ギャンブッチ、オリジナル・ライブ・ミュージック：エミール・ブロンデル (シューベルトから抜粋)、エレクトロアコースティック・サウンドトラック：高橋幸世、文：サン・テクジュ・ペリ作品から抜粋+高橋幸世オリジナルテキスト。製作：Nekaa Lab/Sashiyo Takahashi.

【プロフィール】

高橋幸世 (作曲家/パフォーマンス・アーティスト)

Nekaa Lab 主宰

クラシック、電子音楽から邦楽古典まで、幅広い音楽と演劇/パフォーマンス・アートの経験を背景に、1999年から音をベースにした作品制作を開始。繊細に作り込まれた聴覚空間と他の感覚要素とを大胆に組み合わせたハイブリッドな<語り物>作品を発表。ミニマルな手法でナラティブと抽象を行き来する、感覚と感情のための寓話世界を作り出している。2006年、Nekaa Lab 始動。縫いぐるみやフィギュアの「研究員」達と共に、人間社会を逆の視点から観察し、詩情と機知に富んだ作品をパフォーマンス、インスタレーション、文章などさまざまな形式で制作・発表。特に、ビデオカメラとプロジェクターを使って箱庭サイズの小型舞台を拡大し、観客の目の前で映像を生み出す「顕微鏡ライブシネマシアター」シリーズは、演劇と映画の言語を結びつける試みとして注目されている。聴覚のイメージネーションに焦点を当てた独自の映像/舞台制作法のレクチャーやワークショップも行う他、2019年からは、新内節岡本流・岡本宮弥として新内節の演奏と研究にも携わっている。

エミール・ブロンデル Emile Blondel (ピアノ、プログラムA)

ピアニスト、エミール・ブロンデルは音楽家、ダンサー、アーティストなど他分野にわたってコラボレーションを行う。ノース・カロライナ・スクール・オブ・アーツでエリック・ラーセン氏に学び、パリではEcole Normale de Musique Alfred Cortotで学んだ。リンカーンセンターのKenan Fellowshipを受け、その後、同センターのローズ・スタジオ・シアターでの「Folk Roots Remixed」公演の機会を得た。オーケストラとの共演にはRichmond Symphony, Durham Symphony, Heritage Chamber Orchestraなどがあり、演劇系アーティストとのコラボレーションも多数。Brooklyn Conservatory of MusicやDalton Schoolでピアノ演奏の教鞭もとる。

加藤英樹 (ベース、プログラムB)

1991年制作の巻上公一のアルバム『殺しのブルース』(ジョン・ゾーン、プロデュース)への参加をきっかけに、1992年にニューヨークへ移住。作品はBASS ARMY (Trigram/1993)ではハードコア・トリオ、DEATH AMBIENT (Tzadik/1995,1999)ではフレッド・フリスとイクエ・モリとの即興アンビエント、またジョン・ゾーン、ジーナ・パーキンズをゲストに迎えたアコースティック作品『HOPE & DESPAIR』(Extreme/1996)、ビッグ・バンドのための作曲作品「MYSTIC SHIP OF LIFE」(THE KITCHENにて2001年初演)、ジェームス・フェイとのエレクトロニクス作品『SIEVES』(Improvised Music from Japan/2004)、大友良英、植村昌弘を迎えた『Green Zone』(doubtmusic/2005)など。ベーシストとしては、大友良英のGROUND ZERO、トニー・バックのPERIL、ヴァイオリン奏者のエイブン・カンとドラマーのカルビン・ウェストンとの『DYING GROUND』(Avant/1996)、スティーブ・スワローのプロデュースによるカレン・マントラーの『PET PROJECT』(Virgin/1999)等に参加。

取材申し込み

上記公演およびワークショップの取材・見学をご希望の方は、事前に必ずプレス担当：マリカ/ロッドマンまでEメールで(EMarica@japansociety.org / ARodman@japansociety.org) お申し込み下さい。尚、プレス席には限りがございます。満席の場合はご容赦下さい。

JS 舞台公演部について：

JS 舞台公演部は、1953年の創部以来、雅楽・能・歌舞伎・人形劇・三味線や落語などの古典芸能から最先端の現代劇、実験音楽やポップ・ミュージック、コンテンポラリー・ダンスまで、あらゆるジャンルの舞台

公演を企画し、当館内劇場にて主催・上演。これまで700種に近いプログラムを米国の観客に紹介してきました。また、招聘したアーティストや団体のために巡回公演（ツアー）をプロデュースすることで、ニューヨークを越えた北米全土に対して日本の舞台芸術を紹介する役割をも果たしています。日本の優秀な若手アーティストにとっては国際的キャリアの登竜門として、また米国人アーティストには新作委嘱や交換レジデンシーなどを通じてより深い日本理解の機会を与える貴重な機関として、日米の舞台芸術界に比類のない貢献をしています。

JSについて：

JS は、1907年にニューヨークに設立された米国の民間非営利団体で、全米随一の規模を誇る日米交流団体です。展覧会・舞台公演・映画上映・講演会、政治・経済に関する討論会やシンポジウム、教育等々多岐に渡るジャンルにおいて革新的なプログラムを、ニューヨーク市歴史的保存建築に指定されているJS本部ビルにて提供し、近年ではオンラインでのプログラムも拡充し、観客を世界に広げています。また、な次世代クリエイターの支援を通して、日本の多様性を深く理解しようと願う世界の人々にとっての案内役となること、そして日米間の相互理解の促進努めています。詳細は www.japansociety.org

＊2021-2022年度のJS舞台公演部は、
以下の財団・基金・企業および個人様よりご支援・ご後援をいただいております。

筆頭支援企業 MetLife Foundation

The New York City Department of Cultural Affairs in partnership with the City Council and the New York State Council on the Arts with the support of Governor Andrew M. Cuomo and the New York State Legislature.

支援者・支援団体

Doug and Teresa Peterson, with endowment support from the Lila Wallace-Reader's Digest Endowment

基金

The Endowment for the Performing Arts, established with a leadership gift from the Doris Duke Charitable Foundation.

その他の支援

Helen and Kenneth A. Cowin, Dean Jeanette C. Takamura, Dr. and Mrs. Carl F. Tausch II, Mr. Alan M. Suhonen †, Sarah Billingham Solomon and Howard Solomon, Paula S. Lawrence, Dr. Stephen and Mrs. Michiko Levine, Marjorie Neuwirth, Hiroko Onoyama, Lyndley and Samuel Schwab, and Nancy and Joe Walker.

† 追悼

協力 全日空

MetLife Meet the Artist Reception は MetLife Foundation のスポンサーにて開催いたします。
JS公式ピアノはヤマハ株式会社様のご提供になります。

プログラム特別支援

SHEEP # 1 は Doug and Teresa Peterson 様から援助をいただいています。北米初演（2018 年）は The Tank, NYC にて共催、The Jim Henson Foundation Presenter Grant 様から資金協力をいただいております。バンクーバーで行われた世界初演は Blim とのコレボレーションで行われました。

###